

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和元年 6 月 14 日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇

生育は順調で有効茎が確保され、中干し時期となっています。中干しの強さは田面が黒乾する程度ですが、用水不足で生育抑制を受けているほ場では中干しを控えましょう。

穂肥は、出穂前 20～18 日頃（幼穂長 2～5mm）に葉色 3.5 程度を目安に施用しましょう。4 月下旬植えの穂肥施用時期は 6 月 25～30 日頃で、出穂期は平年より 2～3 日早い 7 月中旬の見込みです。

### ◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

5 月中旬～6 月上旬植えは、田植え後、高温で経過したため活着が良く生育は順調です。降雨が少ないため、一部地域では、田植えが平年に比べて 3 日～1 週間程度遅れています。麦収穫後でも田植えが始まり、平坦地の「夢つくし」は 6 月上旬中旬、「元気つくし」は 6 月中下旬、「ヒノヒカリ」は 6 月下旬が最盛期となる見込みです。計画的な配水で用水を確保しましょう。田植え後は浅水管理を徹底して、活着促進と初期生育の確保を図ります。5 月植えで雑草が多い場合には、中後期除草対策を実施しましょう。

### ◇麦類◇

大麦・はだか麦に引き続き、小麦の収穫が終了しました。出穂後の高温、多照により粒の充実は良好で、穂数も多く、収量は平年より多い（前年よりやや多い）見込みです。全体的に適期収穫が進んだことから、品質は、良好の見込みです。調製のふるい目は、小麦 2.2mm としましょう。ほ場への有機物還元のため、麦わらはすき込みましょう。

### ◇イチゴ◇

30 年度産の出荷は、5 月下旬で終了しました。出荷開始がやや遅れましたが、大玉傾向で果形や食味も良く年内出荷量は増加しました。着果負担で年明け後の生育はばらつきましたが、温度・電照管理の徹底、炭酸ガス施用などで草勢が維持されました。出荷量は 3 月下旬から 4 月上旬にピークとなり、4 月も夜間の冷え込みや乾燥で果実品質が良く順調な出荷となりました。昨年より高単価で出荷量も増加し、販売金額は「あまおう」導入後で最高の約 160 億円となりました。

低温や乾燥の影響で親株からのランナー発生はやや遅れましたが、採苗作業は 5 月上旬から開始されています。採苗は、6 月中旬までに終了させましょう。アブラムシ類、ハダニ類の発生がみられます。アブラムシ類、ハダニ類、炭疽病の防除対策を徹底しましょう。

### ◇温州ミカン◇

一次生理落果（5 月下旬）は高温乾燥の影響でやや多く、露地栽培の結実は、極早生は前年並み、早生は並み～やや少なく、普通はやや少ない～少ないです。今後、6 月中

下旬の二次生理落果の落果状況を確認し、適正着果量の確保に努めましょう。梅雨期の排水対策、マルチの被覆準備を行いましょ。病虫害の発生は、全般的に少ないです。今後、黒点病、カイガラムシ・ハダニ対策を徹底しましょ。

#### ◇ナシ◇

加温ハウス「幸水」は、7月上旬から出荷の見込みです。トンネル・露地栽培は、発芽不良が一部で発生したものの、開花期以降の好天により、結実、肥大は概ね良好です。誘引・摘心等の新梢管理を徹底し、果実品質向上および次年度の花芽確保に努めましょ。一部で黒星病やハダニが散見されます。黒星病の後期感染時期を迎えているため対策を徹底しましょ。

#### ◇トルコギキョウ◇

冬春出しの出荷は終了しました。1～5月の出荷量は、作付け面積の減少により前年比91%と減少、販売単価は、台湾、沖縄産の出荷が早く終了したため、4～5月の単価が190円以上と高騰し、通期の単価と販売額は上昇しました。

6～8月出しの生育は順調で、6月下旬から出荷量が増加する見込みです。適宜換気を行い、過剰なかん水を控え、茎葉の軟弱化を防ぎましょ。古い花や葉先枯れした葉には灰色かび病が発生しやすいので対策を徹底しましょ。アザミウマ類の対策も徹底しましょ。

#### ◇茶◇

一番茶の出荷は5月28日で終了しました。二番茶の摘採は6月3日開始、ピークは、平坦地では6月12日頃、山間地では6月17日頃の見込みです。適期摘採に努めましょ。ハダニ類、ヨコバイ類の発生が多いです。炭疽病、もち病対策も徹底しましょ。

#### ◇肉用牛◇

5月の和牛枝肉単価は、例年どおり、連休以降の需要が縮小し、ほぼ前年並みの水準でした。交雑種主体の省令価格もほぼ前年並みの水準となりました。暑熱ストレスを軽減するため、送風や消毒等を徹底して疾病予防や健康管理を徹底しましょ。